地域支援センター「しせい」

第６号　地域支援センター通信【令和元年12月23日発行】

専門家派遣によりご指導いただきました！

今年度も、作業療法士・言語聴覚士等外部専門家にお出でいただき、専門的な視点を取り入れ、児童生徒に対する指導の充実を図る取組を行いました。個別のケースの相談という形で実施しましたが、児童生徒の発達全般に関わることもご指導いただいたのでお伝えします。

☆　６／28（福島県総合療育センター　　作業療法士　今川　雅代氏）

（粗大運動・姿勢保持等）

・高い所からジャンプする、机を叩く、椅子を揺らすなどの行動は、気持ちを伝える他に、「刺激を入れたい。」欲求が考えられる。休み時間に十分にトランポリンを跳ぶなどの活動を入れることで、すっきりして授業に臨むことができる。

・歩き回る行動は、覚醒レベルが低いことによる。歩くことで身体を起こそうとしている。

・着席したときに、しっかり床に足裏が付く状態にすることで、机上での学習に集中できる。（机のサイズが合わないときは、雑誌をガムテープで巻くなどして台を作るとよい。）

・手足の左右をバラバラに使う運動の向上では、中心軸を育てること、左右分離、身体の支持が必要。平均台や物を持ってトランポリンを跳ぶこと、身体の正中線（真ん中）を超える動きを取り入れる。

・座位が保てない場合、覚醒レベルが低いことがある。牛乳パック・バスマットなど使って、手すりをつけ、腰の部分もしっかりホールドされると良い。

たくさん跳んで、すっきり！！

足はぺったん！

投げるとき、振った腕が
身体の真ん中を越えるかな？

（微細運動）

・筆記の際には、手首を起こして握ると力が入れやすい。握る動作についても、粘土など遊びを通して行う。

・折り紙を折るときに手の平を使う場合、つまむ動作を練習すると良い。洗濯ばさみなどを使い、練習できる。

・食具を使う際には、脇を締めるようにする。スプーンなど太めから始めると良い。

・親指と他の４本が向かい合うような動きを育てるためには、大きなボールを持つなどすると良い。

・麻痺等により衣服の着脱がしづらい場合、例えばエプロンでは、頭を通す部分と腕を通す部分の違いが分かりやすい方が良い。肩が上がるなら、持って上に上げてかぶるところから始める。

粘土こねこね。

脇をしめて。

大きいボールを
握ってみる。

まずかぶる。

☆11／13（南相馬市こども総合相談室　言語聴覚士　上原　麻美子氏）

・筋肉がうまく発達していないと、正しい発音にならなかったり、よだれが垂れたりすることにつながる。楽しみながら「お口の体操」をしてみてはどうか。（あいうべ体操など）また、食事の際には汁物で流し込まずに、十分に噛むことも大切である。

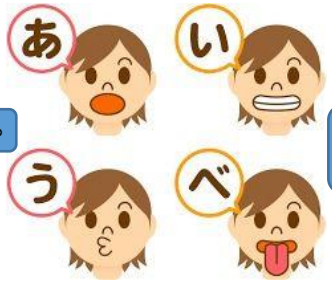
・発音に誤りがある時には、無理に言い直しをさせずに、正しい音を聞かせるようにする。

・年齢が上がり、発音にまで気をつけられるようになってきたら、正しい音を出すための構音指導を取り入れることができる。本人の思いも大切にしながら進め、「こうすることで伝わりやすい。」と実感すれば、定着も進む。相手に言いたいことが伝わることは、就労に向けても大切な要素になる。

・噛み合わせ等の問題があるときには、歯科医との連携が必要である。

風船をふくらませる。

よく噛んで。



口の筋肉を
動かそう。

ブックトークコーナー

養護教諭の永岡先生よりご紹介いただきます。

今回は、性教育関連の図書を2冊紹介します。

「性と生の支援　性の悩みやとまどいに向き合う」

伊藤修毅　編　“人間と性”教育研究協議会障害児・者サークル　著　　本の種出版

お子さんの成長とともに、増えてくるのが「性」に関する悩みではないでしょうか。

保健室でも保護者から性に関する相談を受けることがたびたびあります。

この本では、例えば「どうしてママにはおちんちんがないのと聞かれ、はぐらかしてしまいました。」というように悩みや相談に答えるQ＆A形式で書かれています。

39の事例と性教育関連の図書の紹介、コラムもあり、わかりやすい内容で、乳幼児期から思春期まで、幅広い年齢層に対応しています。

「発達障害の女の子のお母さんが早めに知っておきたい「47のルール」」

藤原　美保　著　　健康ジャーナル社

「発達障害の女の子たちは「性の被害者」になりがちです。残念なことに、法律は彼女たちを守ってくれません。彼女たちを守るために必要な知識やルールをわかりやすくまとめました。ご家族の幸せのために、ぜひご活用ください。」～著者のことばより～

この本では、医療機関・専門家との付き合い方、親としての心構え、日常生活での支援と療育、健やかな生活を送るために、思春期と性教育、知ることで深まるわが子への理解と支援について書かれています。

性に関する興味関心は、発達の遅れが有る無しに関わらず成長とともにでてくるものです。親や教師が性について話すことにためらいを持ったり、まだ早いのではないかと考えたりして機会を逃すことだけは避けたいところです。

今回紹介した図書以外にも、絵本などもありますので、お子さんと一緒に読んでみるのもいいのではないでしょうか。

養護教諭　永岡　富紀子

文責：大和田布佐子